

大栄技研工業株式会社

専門知識不要で、業務効率とデータ整合性を向上させるデジタル化ツールを導入し、紙媒体からの脱却を推進

大栄技研工業株式会社 概要・実証計画【1/2】

企業概要

企業名	大栄技研工業株式会社  大栄技研工業株式会社
所在地	愛知県半田市
代表者	山守一久
資本金	9,500万円
従業員数	77人
事業内容	産業車両用板金溶接部品、空調防災ダンパの製造

- 「鉄とトモダチになる会社」をモットーに、板金と溶接技術を磨き、より良い価値を社会に提供することを理念としています。
- 「アタリマエのことをバカにしないでちゃんとする」ことを大切に、社会やお客様から信頼される会社を目指しています。

概要



デジタル化推進の背景

- 紙を使用した情報・指示・報告の伝達や共有について、業務効率改善のために、デジタル化を推進したい。
- 高度に専門的な知識を持つ人がいなくても、業務のデジタル化が可能なツールを導入したい。
- データの整合性を確保したい。

実証体制

全体統括

取締役

実証担当

IT推進室

- 取締役兼IT推進室担当のため実証も担当

ノーコードで様々なSaaSとの連携とフローロボット作成ができるツールを活用し、情報共有の迅速化とかかる工数の低減を目指す

大栄技研工業株式会社 概要・実証計画【2/2】

最終的にデジタル化で達成したいこと

- 業務の削減や効率化により、必要な情報伝達が速く、正確に行われることになり、より付加価値のある作業に集中できる環境を構築する。
- 情報を活用し、技術をより磨くことができる環境を構築する。

今回実証で実施したいこと

- データ連携ツールを使用して、データの取り込み作業や出力作業、それに関わるデータの加工作業を自動化する。
- 作業のタイミングを気にする必要がなくなるよう、スケジュールまたは即時のデータ連携を行う。
- プログラミングを使うことなく実装する。

目標とする成果

- 情報を受け取る側が、常に最新のデータを参照できる。
- 情報を送る側は、入力作業なし、または最低限の作業で済む。

実証で利用するツール

導入ツール	Yoom（Yoom株式会社）
導入費用	フリー ： 無料 ミニ ： ￥9,600/月 チーム ： ￥24,000/月 ※2025年1月末現在
ツールの説明	➤ Yoom株式会社が提供する、業務フローを自動化できるツール ➤ 様々なSaaSと連携することができ、SaaS間のデータ連携も可能 ➤ フローロボットをノーコードで構築することが可能

【使用理由】

- 使用しているシステムやサービスで連携が可能であった。（奉行クラウド、キントーン、グーグルワークスペース等）
- API連携のため、RPAに比べてデータの整合性が確保しやすいのではないかと考えた。

実証を行うために、利用ツールや頻度やデータ量を考慮したサンプル業務の選定と、課題解決に向けた新たな業務フローの検討

大栄技研工業株式会社 実証実施結果【1/3】

——— 解決を目指した具体的な課題

更新頻度の制限

- 製造部署への情報展開として、客先からの納入指示データをキントーンアプリに取り込んでいる。
- データの重複を避けるために、一日一回の取り込みしか行っていない。
- そのため、最新データは一日後まで参照することができない。

情報待ちの発生

- 出荷指示書の作成のために、販売管理システムから受注伝票のデータを出力し、Excelマクロによる処理を行い、キントーンアプリに取り込んでいる。
- 一日四回で時間を決めて作業を行っているが、集荷担当者は情報を待つことが発生する場合がある。

——— 課題解決に向けた具体的な取組内容

いつでも更新可能

- 最新データをグーグルドライブにアップロードすることで、自動的に情報が更新されるフローボットを検証する。
 1. グーグルドライブに納入指示データ（csv）をアップロード
 2. データ項目を組合わせて一意となる値を作成
 3. ひとつのスプレッドシートに重複しないようデータをまとめる
 4. スプレッドシートをキントーンに連携する

即時に情報を反映可能

- 販売管理システム（商奉行クラウド）のデータを、スケジュールしたタイミングで出荷指示書アプリ（キントーン）に連携するフローボットを検証する。
 1. 販売管理システムで受注伝票を起票
 2. 指定したスケジュールでデータ連携を行う
 3. 受注伝票と受注明細をキントーンのテーブルに連携する

実証のためのフローボット作成で躓いた点と、実証により実現できた新たな情報共有の可能性と、見つかった課題

大栄技研工業株式会社 実証実施結果【2/3】

実証時に感じた壁および克服のためのアクション

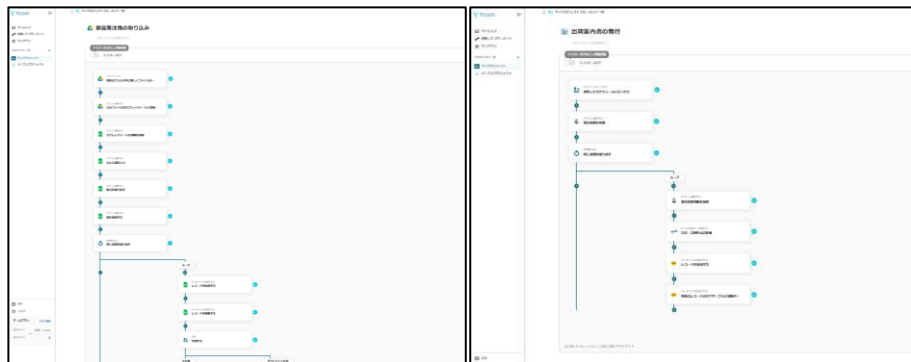
【実証時に感じた壁】

フローボットの設定

- システムごとに設定できるアクションや操作が様々あり、どの操作を設定すればいいか選択が難しかった。また複数行のデータに処理をしたい場合に、分岐・繰り返し処理などを利用することがあり、こちらも最初は戸惑った。

【克服のためのアクション】

- ヘルプを検索し、サンプルのフロー設定方法を試してみたり、それでもわからない場合は、チャットでの問い合わせを利用して解決した。



取組に要した工数

全体統括

取締役

進捗報告に 1 時間 / 月

実証担当

IT推進室

フローボットの検討・作成に
10 時間 / 月

取組の成果

リアルタイムな情報共有の可能性を確認できた

- フローボットを使って自動化が可能であることが確認できた。
- 今回の実証で試した業務のデータ量や処理量だと、フローボットの動作に時間がかかりすぎること、利用できる上限タスクをすぐに超過してしまうことがわかった。



実証により見つかった、データベースプラットフォームの重要性・必要性和、今後に向けたデジタル化戦略

大栄技研工業株式会社 実証実施結果【3/3】

今後の課題・目標

データベースやプラットフォームの選択

- 今回の実証のように、トランザクションデータを複数のシステム間で連携することは、ツールを利用したとしても、コストや時間的に良くないことが分かった。
- ひとつのデータベース上にデータを集約し、業務ごとにそこからデータを利用するようなシステムが、理想的ではあると感じた。
- しかし、ERPのようなシステムは、規模的に大きすぎるので、MicrosoftやGoogleのビジネスプラットフォームを中心に据えて、デジタル化を考えていく。

(デジタル化を推進する他企業への) メッセージ

デジタル化ツールの活用

- 継続して利用する場合は、効果とコスト等の検証が大切だが、試しで短期間利用できるようなツール・サービスが様々あるので、まずは利用し、活用することが大切です。